

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成29年度)

2. 分野等別状況 (1) 国際戦略総合特区(3/7)

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ 目標に向けた取組の進捗	Ⅱ 支援措置の活用と地域独自の取組の状況	Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
北海道フード・コンプレックス国際戦略総合特区 (北海道、札幌市、江別市、函館市、帯広市、音更町、士幌町、上士幌町、鹿追町、新得町、清水町、芽室町、中札内村、更別村、大樹町、広尾町、幕別町、池田町、豊頃町、本別町、足寄町、陸別町、浦幌町、北海道経済連合会)	4.4	4.5 <u>進捗度</u> ・特区が関与した食品の輸出額・輸入代替額等 105% ・企業と一次産業との連携プロジェクト数 80% ・機能性素材の新規研究開発プロジェクト数 81% 等	4.2 <u>規制の特例等</u> ・農業経営改善自家用貨物自動車活用事業 等 <u>財政支援等</u> ・農業生産体制強化事業 等 <u>地域独自の取組</u> ・道産小麦利用転換ニーズ増進事業 等	4.5	・事業の実績が上がってきており、成果は十分に見て取れる。 ・食品の輸出額・輸入代替額、国際認証・登録数等が当初の予定を上回っており、適切な進捗がある。 ・規制の特例措置、財政・税制・金融支援及び地域独自の取組の実績が成果につながっていると評価される。 ・農業用貨物自動車の車検期間伸長、農家レストランの市街化調整区域内の設置等の協議が実効的に進められていると判断される。 ・プロジェクトマネジメントによるプロジェクトの数の増加と質の向上による成果を得ることが望ましい。一層の努力に期待する。 ・金融支援事業、地域独自の支援事業について成果につながっていると考えられるが、金額や対応する売上等の関係などエビデンスが評価に必要と考えられる。